

緑友 だより

NO. 39

51/12

全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田1-29-11 (社)日本印刷技術協会内
◇発行人=筒井尚亮 ◇編集人=作道亮雄

東京から沖縄へ

》緑友会本部だより《

会長 筒井尚亮

全国印刷緑友会の皆様、今日は。冷気日に日に増す候となりましたが、皆様お元気でご活躍のことと存じます。今年もあとわずか、皆様のお仕事のぐあいはどうでしょうか。年末年始特有の繁忙さはございましょうか？ 景気やや回復とはいっても、東京地区の印刷はそれほど忙しいこともなく、このまま今年も終りそうです。

さて東京がお引受け致しております緑友会20周年記念大会の準備も着々と進み、去る10月22日に東京・丸の内の帝国ホテルで開かれた全国グループ長会議において、記念大会の会場になる帝国ホテルの諸会場を下検分しましたが、その規模の大きさに改めて驚いた次第です。記念講演の講師には財界・学界のトップクラスの人々がノミネートされ、例えば松下幸之助、盛田昭夫、堤清二などの各氏の名があげられてきております。

また「20周年史」の編纂は、市村初代緑友会幹事長を中心に、OBと現役とが協力し、さらに印刷図書館の沢田巳之助氏を実務編纂の中心として進められております。歴代の幹事長、会長その他各グループの中で、特に緑友会にゆかりの深い方々に寄稿の依頼も徐々に行われております。

またグループ長会議の当日、20周年を機に緑友会会歌を全会員から募集することが決まり、常任幹事会で募集要項を決め、近く全グループの皆様にご依頼することになると思います。

次に、新しい試みとして、東日本印刷人の集い（東京都、茨城、上信越）が、来年の6月頃長野県上小印刷若獅子会のホストで行なわれる予定です。20周年を中心に、各グループの活動も活発化して来ております。

・続々新グループの加盟実現へ・

かねて準備を進めて来られた広島県印刷青年研究会と、千葉県印刷工組青年部の2グループが、20周年を機に、新たに我々緑友のメンバーに加盟されることがほぼ決定を見、あとは多少の手続きを残すのみとなって来ております。その他の各地区でも緑友加盟の動きが盛んになって来ており、まことに喜ばしいことと存じます。

現在のメンバーの方々も、近県の皆様へのお誘いを心からお願い致します。

・21回大会は南国沖縄に決まる・

沖縄県青年印刷若潮会の皆様の熱意と情熱で、第21回沖縄大会が実現することになりました。今からその旅行にそなえて、各グループ内で積立てを始めようとの申合せも致しました。南国沖縄の若々しい息吹きをのせて、若潮会のお便りも来年あたりから皆様のお手許にとどくようになると存じます。ご期待下さい。

◇ ◇ ◇

以上簡単ですが、まずは51年の年の瀬を控えての緑友会「本部だより」と致します。

「20周年」へ向って

★記念大会準備はこう進んでいる★

全国印刷緑友会創立20周年記念大会

実行委員長 中村守利

全国印刷緑友会20周年を記念して、その記念大会が昭和52年東京で開催の運びになっていますが、その準備状況をお知らせします。

去る5月30日、20周年記念大会準備委員会を発足させ、全国緑友にゆかりの深い先輩諸兄との意見交換をはかる一方、数回にわたり大会内容の検討をすすめてまいりました。

10月22日、準備委員会が実行委員会に切りかえられメンバーは筒井会長はじめ在京5グループ各3名、計16名の構成で準備を推進することを決定、実行委員長に中村守利（印刷同友会）を選出しました。なお、構成各グループの任務分担は次の通りです。

千代田印刷人新世会 } 講演会・分科会
神奈川正和会 }
文京緑友会 } 式典・懇親会
東京写真製版若葉会 }
印刷同友会 = 総務・会計・広報

大会内容の討議経過として、8月28日岐阜での常任幹事会で、大会テーマ及び日程等が検討され、大会スケジュールでは従来の二日にわたる日程を一日型に考

慮して欲しいとの多数意見があり、実行委員会で検討の結果、一日スケジュールに内定をみえています。

また9月19日、茨城大会の席上で発表しました通り「高度化社会における印刷未来像を探る」という大テーマに基づいて、各グループとも真剣に討議を重ねている状況です。

すでにほぼ内定していることは次の通り。

◇名称＝全国印刷緑友会創立20周年記念大会

◇時期と会場＝昭和52年10月8日(土)、帝国ホテルに決定。10月23日の全国グループ長会議の際、全員で会場を視察し、最高の雰囲気をもつ会場として全員一致帝国ホテルに賛同。有力筋からの働きかけで破格の料金設定をみえています。

◇20周年記念史＝8月17日、編纂委員会が初めて開かれ、委員長に市村道德氏、副委員長に高橋茂氏・筒井尚亮氏が選ばれ、前後三回の会議をもって現在資料を収集中です。

その他、講演会、分科会の内容、講師選定（財界から招くことを決定）、懇親会等の催し物は今後逐次検討していく予定です。

● グ ル ー プ 通 信 ●

— 岐 阜 / 広 島 —

謹啓 次第に秋も深まり、今日のように抜けるような青空を見上げていますと、あの恐ろしい悪夢のような集中豪雨がまるで嘘のように感じられます。

その後、皆様方にはお変わりございませんか。

先日は私共ぎふ翠陽クラブに早速過分の暖いお見舞をいただき、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

その後、被害にあいましたクラブ員の会社も皆様方の励ましや御支援により、一丸となって復旧修理に努め、徐々に稼動するようになり、一生懸命頑張っておりますので、どうか御安心下さい。

このたびの試練を今後の良き教訓とし、ますます結束を強め、クラブの発展に努力する覚悟でありますので、これからも何卒よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

まずは取急ぎお礼申し上げます。

ぎふ印刷翠陽クラブ
水谷勝彦

広島への加入決まる

26人の「青印クラブ」



広島青年印刷人グループの全国緑友会加入が正式に決まりました。

「広島県青年印刷研究会」（通称＝青印クラブ）は12月11日開かれた総会で、全国緑友会への加入を決議しました。

青印クラブは昭和49年4月15名で発足、現在会員数は26名。会長は国光俊彦君（至誠堂印刷社長）。毎月第二土曜に例会を開き、議事と講演による研修に励み、総会は年二回、そのほか家族会、一泊研修会、運動会などの活動を定例化しています。

「魁」の水戸で友情交す

第19回全国大会終る

すでに報道された通り、全国印刷緑友会第19回大会が、茨城緑友会（長倉克彦幹事長）の主管によって、9月18-19日の二日間、好天下の水戸市で開かれました。出席した仲間は21グループ、オブザーバー4団体の約200名。「緑、調和、魁」をテーマに掲げ、開会式と記念講演のあと分科会で四つの課題を掘り下げました。また大洗海岸での地曳き網や懇親会、さらに水戸周辺の観光など、茨城緑友会が基本方針とした①自力運営②ローカル色の苦心がみごとに生かされた友情の交歓が繰り広げられました。その模様をいま一度振り返ってみることにします。



（「まじ」をもつて…と歓迎する長倉実行委員長）

光圀公の教訓聴く

☆式典と記念講演☆

○…9月18日正午から水戸市内の茨城県民文化センターで開会式。竹内県知事、和田水戸市長、大川県工組理事長、壇本茨城緑友会初代幹事長ら来賓各氏が壇上に着席、地元茨城の五十嵐豊毅君が司会をつとめ、小林十三君が力強く開会を宣言、君が代斉唱に続いて飯田全国緑友会副会長のリードで綱領の唱和とセレモニーがすべり出す。物故者に黙祷を捧げたあと参加各グループが紹介され、盛んな拍手を浴びる中で、11名の参加を予定しながら17号台風による長良川決壊で水没、浸水の被害を蒙った岐阜県のグループ、ぎふ翠陽クラブの参加中止が惜しまれました。

○…この一年半、大会準備の先頭に立って全力投球してきた茨城の長倉幹事長、この日は実行委員長として歓迎のあいさつ。「我々には若さがある。若いエネルギーを結集し、未来像へ積極的に挑戦しよう」と訴えるとともに、①当面している問題を自分たちで討議しよう②地方色のよさを生かそうの二方針を大会運営に貫いたと報告、「派手になりがちな大会を、極力質素に、そしてまごころで全国の仲間を迎えよう一をモットーにした」と水戸っ子のさわやかな心意気をのぞ

かせました。

○…そのあとあいさつにたった筒井全国緑友会会長は、「仲間意識をもって胸襟を開き語り合おう。これこそ真の緑友精神一」と呼びかけ、また来年の20周年記念東京大会のテーマは「高度化社会における印刷の未来像を探る」に決ったと報告しました。

このあと竹内知事、和田市長、大川県工組理事長から相次いでメッセージがおくられ、とくに大川理事長には「準備にあたった若い地元のメンバーが水戸精神を発揮してよくまとまり、がんばった。これだけの団結力があるとは、正直なところ知らなかった」と若者見直しのおほめのことを頂戴し、地元メンバー改めて面目をほどこす一場面でした。

○…小憩ののちの記念講演は茨城大学名誉教授の塚本勝義先生。小学校卒の学歴だけであとは独学一筋、小学校教員から中学、師範の先生、さらに戦後茨城大学教授になったという教育者生活50年のベテラン。郷土の偉傑水戸光圀公の事蹟を楽しいエピソードで紹介それを通じて現代と経営に通ずるキラリと光る教訓や示唆をひき出し、感銘を呼び起しました。飄逸この上ない枯れた常州訛に包まれた鋭い機智、笑わせながら心に残る伝統の知恵と生き方を説くその話は、五官にそれとなく新たな感覚呼びさす水戸の梅の味のようなでした。

四テーマに取り組む

☆分科会討論☆

○…式典のあとは分科会。四グループに分かれ意見交換。「自分たちの問題を自分たちで討論しよう」という実行委員会の方針。

第1分科会は「中小企業における賃金問題」で、テーブルリーダーは大阪の作道亮雄、満谷健作両君の担当。あらかじめ詳細に準備されたレジュメに基いて、①昇給と配分②賞与の決定と配分③総額決定の方法④賃金体系の確立という四つの焦点にしばる。世論調査風の手法で各社の現状を調べ、賃金決定の方法や配分のしかたがきわめて恣意的であり、また賃金政策についてもはっきりした方向を持ち得ていない現状が浮きぼりにされました。討論を通じて、低成長下においては水準より配分を重視し、配分による新しい「公平さ」

を追求すること、高令化社会における年功序列型賃金の真剣な見直し、成果配分要素の導入とその基準の確立の必要性などが示唆されました。

○…第二分科会は「構改後の取組み方」で、千代田新世会の青木宏至、小林忍の両君がリーダー。

従来のような制度助成を望めないポスト構改環境、しかも技術革新の停滞で合理化効果にも限界、需要の大幅増大も期待薄という中で、今後いかに自力で体質改善を進めていくかに論点をしばっての討論。すでに5年の計画期間を終ろうとする構改改善については、



地域別にかなり格差があるという現状が報告からうかがえました。東京の仲間が主に討論をリードする形で設備の大型化、多色化が需要停滞下に過当競争を招く原因になっており、それは地方も似た状態だとして、無原則的な価格競争への激しい批判が集中しました。

意見の流れとしては、付加価値の高い仕事の開発、サービスの見直し、グループ内部の専門化による仕事交換と協業などの方向が話合われ、とくに緑友同士の連絡による仕事の効率向上といった問題も強調されましたが、全体として構改を通じて他力本願の傾向を助長したことへの批判と反省が底流になっている感じでした。

○…第3分科会は「コールド化と活版印刷」。リーダーは長野の飯田範夫、太田将美両君。

組版方式のコールド化傾向は依然続き、その意味で長い移行期にあるわけですが、組版をコールドタイプにした場合には印刷方式をオフセットにするのが普通のケース。ただ、この分科会では、オフセットではなくあくまで活版印刷とコールド化との関係という問題点に視点を定めているために、討論の展開にリーダーもかなり苦勞があったようでした。

コールド化を図る理由としては、①組版工の高令化②軽印刷との競合③構造改善による協業④オフへの中継としての樹脂版採用⑤置版整理…などが目立ちました。

また逆に、コールド化できない理由としては、①修正が多い②コールドの割付貼込みの煩雑さ③人員配置が壁になって手がつけられない④受注内容が活版に限定される…といったところでした。

○…第4分科会は「料金問題」がテーマ。リーダーは北九州の渡辺守将、白石勝久の両君。ここも料金という名うての難問だけに討論の交通整理にはひときわ気を配るところ。事前に北九州と下関の両グループが

交した討論をもとに問題を三つにしばりました。その問題とは、①現在の料金問題は、過当競争による値くずれが問題なのか、設備高度化によるコスト低減からくる製品原価の格差の問題なのか②受注生産・一品生産の印刷において原価はいかに管理されているか③かりに原価管理、価格の基準が整ったとしてもそれを守る姿勢が望めるかどうか。

これをめぐって各グループが意見を述べ合い、それぞれ実例も含めて問題の性質を検討しました。県内は協調できても他府県業者が乱す、原価管理・営業マン管理がズサンである、家族型企業の多いことが料金格差を生む、生活的基準による料金算定と経営的な基準による料金とが相いれない形で併存しているなど、問題の根をさぐり、**姿勢**については「せめて緑友の範囲だけでも」と、まず自らの姿勢をただし維持する意欲をみせていました。

★太平洋に挑む…

☆第2日目の交流☆

○…分科会を終るとバスで大洗海岸へ。浜辺にたつホテルで懇親パーティの一刻。**新鮮な魚、まだ土の香のしそうな野菜と、文字どおり一味違ったテーブルのご馳走は「ローカル色を出そう」の地元グループの心ばえ。**お国自慢の披露をまじえて尽きぬ交歓の一夜をあかした翌朝6時、**長倉実行委員長が一年も前から心配していたのはこの日の天気。お待ちかねの地曳き網空はよく澄んで風もなし、同勢200名なぎさを踏んで網をしぼること40分。戦果はいま一つ迫力不足のようでしたが、それでも「一生一度の思い出…」と赤くなつたのひら眺めて納得のテイ。**

○…さっそく全体会議を開いて前日の分科会報告。次いで次期大会開催地の東京を代表して同友会の中村守利幹事長が準備状況を報告。

また席上、オブザーバーとして参加した三団体から広島印刷工組の国光俊彦氏、東京青年印刷人協議会の八十島敏行氏、日本青年会議所印刷部会の原田光蔵氏がそれぞれメッセージを一。そして茨城の長倉実行委員長から筒井会長へ、さらに東京へと会旗が伝達されすべての会議を滞りなく終えました。なお、参加者の総意で17号台風災害を蒙った岐阜のグループへの見舞金拠出を決め、会長に一任しました。

○…大会も最後のコースへ。海岸で太平洋を背に記念撮影のあとバス三台に分乗しての**エクスカーション。東海村原子力発電所から萩が盛りの借楽園、芝生で昼食をとったあと水戸の気風この上なくしのばせる弘道館へ。見学をすませると門前に列をつくった茨城緑友会のメンバーのあたたかい拍手におくられて、「ありがとうございました」と口々に、そのまま流れ解散。**

「迎える人のまごころが身にしみるよう」と誰しもが感じた水戸の二日間でした。

「弓、一張一弛有りて而してつねにつよく、馬一馳一息ありて、而してつねに健し。弓に一弛無ければ則ち必ず挽み、馬に一息無ければ則ち必ずたおる」

—借楽園記より—